

日本台湾学会第26回学術大会
分科会企画・自由論題報告募集のお知らせ

2023年8月6日

日本台湾学会 会員各位

企画委員長 富田哲

日頃より、日本台湾学会の諸活動にご尽力くださり、まことにありがとうございます。下記要領のとおり第26回学術大会の分科会企画及び自由論題報告を募集します。会員の方々にはふるってご応募くださるようお願いいたします。

第26回学術大会は、2024年5月25日(土)、26日(日)に麗澤大学で開催します。

なお、子育て世代の研究者を支援するため、会場最寄りもしくはご自宅近くの託児サービスを利用される方に、補助金(費用の一部または全額)を支給いたします。補助に際しては、登壇者かつ非有職者を優先いたします。利用条件の詳細については2024年3月ごろ送付される案内をご参照ください。

(1) 分科会企画

- a. 添付の申込用紙に日本語で以下の①～⑨の必要事項をご記入の上、2023年10月14日(厳守)までに下記の提出先に電子メール(WORD限定)で提出してください。申請用紙を受け取ってから5日以内に受理したことを返信します。返信がない時には、jatskikaku@gmail.com までお問い合わせください。

記入必要事項：①企画題名、②企画種別、③企画責任者・座長・報告者・コメンテーターの氏名・所属・職位等(台湾文学学会会員、学生、院生の場合には、その旨を明記)・連絡先(電話番号および確実に連絡可能なメールアドレス)、④個別報告題名、⑤報告テーマに関連する報告者の主要な業績(2点程度。院生の場合は修士論文の題名も可)、⑥企画の概要(各発表者の内容面での役割分担を明記)と学術上の意味(2000字程度)、⑦経費補助を希望する理由と目的・費目(必要な場合のみ記入)、⑧報告言語(日本語以外を使用する場合にはその言語を明記)、⑨研究領域。

提出先：富田哲 jatskikaku@gmail.com

- b. 企画責任者は本会会員または台湾文学学会会員に限ります。まだ本会に入会手続きをしていない申請者は、企画申請時に入会申込書を日本台湾学会事務局(261-8545 千葉県美浜区若葉3-2-2 日本貿易振興機構アジア経済研究所気付)に郵送してください。なお、入会に際しては審査があります。申請の正式な採用は、入会が認められ年会費が納付されたことが条件となります。

その他の登壇者も両学会いずれかの会員であることが原則ですが、座長、報告者、コメンテーターに非会員をくわえる必要がある場合には、その理由を申請書に明記してください。企画責任者が座長、報告者、コメンテーターを兼任す

ることもできます。

会費を長期滞納している本会会員が企画責任者、報告者になることはできません。納入状況は企画責任者が報告者または事務局にお確かめください。滞納の事実がある場合には、2022年度までの会費を納入することで発表資格を認めます。

- c. 分科会は1セッション110分です。1セッション企画の他、2セッション一組の企画案も受けつけます。ただし、2セッション一組の申請をした方は、別の分科会や自由論題報告への申請はできません。原則として1セッションの報告者は2名、コメンテーターは1~2名、報告者1人あたりの報告時間は最大30分程度です。2セッションで一企画の場合は報告者3名以上とします。
- d. 採用後、審査意見を参考に、必要な範囲内で内容やタイトルを変更することを認めます。逆に審査意見に抵触したり、反するような形での変更などは認めません。またプログラムの確定後は、タイトル、人員構成、発表内容等の変更は認めません。万一やむを得ない事情がある場合は、企画委員会にご相談ください。プログラム確定後に企画委員会の許可なくタイトルや内容の変更があった場合には、発表を認めないこともあります。

報告者は企画責任者を通して大会実行委員会に報告論文（12,000字から32,000字程度。A4・1枚を40字×30行として、図表等含め最大27枚まで）を提出してください。報告論文は学会ホームページの専用ページ（学術大会終了後、2日をめどに閉鎖）にアップロードし、会員がIDとパスワードを用いてダウンロードする方式をとります。報告論文の書式は『[日本台湾学会報](#)』の原稿執筆要領に準じます。

報告論文の提出しめきりは、例年、3週間前を目安としています。詳細については、大会の2ヵ月前までに実行委員会からご連絡します。

すでに公刊済みのものを報告することはできません。言語は日本語を原則とし、英語・中国語等で執筆する場合には、日本語翻訳、少なくとも日本語サマリーをあわせて提出してください。

報告論文の完成稿の提出は必須です。必ず期限内に論文を提出してください。完成稿が提出されなかった場合、報告が成立しなかったと判断することもあります。

- e. 経費補助について

①学会会計および学術大会会計の状況に応じて、非会員招聘のための宿泊費・交通費実費等の経費補助を、所定の基準にもとづき1企画最大5万円をめどに行う場合があります。

②非会員が分科会企画の座長・報告者・コメンテーターを担当する場合は、本学会への入会をお願いすることがあります。また、有職者には極力、勤務先の出張旅費等の利用をご依頼ください。

③出張依頼書が必要な方は企画委員会までお問い合わせください。

- f. 採用企画数の上限は、日程や会場校のキャパシティを考慮して調整します。
- g. 報告言語は原則として日本語とします。その他の言語での発表・質疑応答が含まれる場合は、企画責任者の責任で、通訳者の手配など参加者間の意思疎通を補助する手段を講じるようお願いいたします。
- h. 申込用紙に、企画申請の研究領域（ディシプリン、例：文学、政治学、歴史学等）をご記入ください。レフェリーを選考する場合の参考にします。

(2) 自由論題報告

- a. 添付の申込用紙に日本語で以下の①～⑦の必要事項をご記入の上、2023年10月14日(厳守)までに下記の提出先に電子メール（WORD 限定）で提出してください。申請用紙を受け取ってから5日以内に受理したことを返信します。返信がない時には、jatskikaku@gmail までお問い合わせください。

記入必要事項：①氏名、所属、職位等（台湾文学学会会員、学生、院生の場合には、その旨を明記）、②連絡先（電話番号および確実に連絡可能なメールアドレス）、③報告題名、④報告テーマに関連する主要な業績（2点程度。院生の場合は修士論文の題名も可）、⑤報告内容と学術上の意味（1200～1800字）、⑥報告言語（日本語以外を使用する場合にはその言語を明記）、⑦研究領域。

提出先： 富田哲 jatskikaku@gmail.com

- b. 自由論題報告は原則として、二つの報告を組み合わせて1セッション110分とします。一報告当たりの報告時間は25分程度です。
- c. 報告者の組み合わせ、座長・コメンテーターは、企画委員会の議を経て常任理事会で決定します。
- d. 採用された報告者は大会実行委員会に報告論文（12000字から32000字程度。A4・1枚を40字×30行として、図表等含め最大27枚まで）を提出してください。報告論文は学会ホームページの専用ページ（学術大会終了後、2日をめどに閉鎖）にアップロードし、会員がIDとパスワードを用いてダウンロードする方式をとります。書式は『[日本台湾学会報](#)』の原稿執筆要領に準じます。

報告論文の提出しめきりは、例年、大会3週間前を目安としています。詳細は大会の2ヵ月前までに実行委員会からご連絡します。

すでに公刊済みのものを報告することはできません。言語は日本語を原則とし、英語・中国語等で執筆する場合には、日本語翻訳、少なくとも日本語サマリーをあわせて提出してください。

採用後、審査意見を参考に、必要な範囲内で内容やタイトルを変更することを認めます。逆に審査意見に抵触したり、反するような形での変更などは認めません。またプログラムの確定後は、タイトル、内容の変更等は認めません。万一やむを得ない事情がある場合は、企画委員会にご相談ください。プログラム確定後に企画委員会の許可なくタイトルや内容の変更があった場合には、発表

を認めないこともあります。

報告論文の完成稿の提出は必須です。必ず期限内に論文を提出してください。完成稿が提出されなかった場合、報告が成立しなかったと判断することもあります。

- e. 出張依頼書が必要な方は企画委員会までお問い合わせください。
- f. 報告採用数の上限は、日程や会場校のキャパシティ、分科会企画への応募との兼ね合いを考慮して調整します。
- g. 報告者は本会会員、台湾文学学会会員に限ります。まだ本会に入会手続きをしていない申請者は、申請時に入会申込書を日本台湾学会事務局(261-8545 千葉市美浜区若葉3-2-2 日本貿易振興機構アジア経済研究所気付)に郵送してください。なお、入会に際しては審査があります。申請の正式な採用は、入会が認められ、年会費が納付されたことが条件となります。
会費を長期滞納している本会会員は報告者になれません。速やかに会費納入状況をお確かめください。滞納の事実がある場合には、2022年度までの会費を納入することで発表資格を認めます。
- h. 報告言語は原則として日本語とします。その他の言語での発表・質疑応答が含まれる場合は、報告者自身で通訳者の手配など参加者間の意思疎通を補助する手段を講じるようお願いします。
- i. 申込用紙に、報告申請の研究領域（ディシプリン、例：文学、政治学、歴史学等）をご記入ください。レフェリーを選考する場合の参考にします。

(3) 審査

分科会企画・自由論題報告の申請は、企画委員会がレフェリーを委嘱して審査を行い、常任理事会で採用を決定します。採否は2023年12月中旬をめぐりに通知します。

(4) その他

- * 応募後、所属、職位などに変更があった場合（あるいは、変更があらかじめ分かっている場合）には、速やかに企画委員会にご連絡ください。
- * 大会に至るまでの事務連絡はすべて日本語で行われます。

⑥ 企画の概要と学術上の意味（2000 字程度。別紙でも可）

（全体の趣旨以外に、個別の発表者やコメンテーターが全体の趣旨とどのように関わるのかについて、役割分担、発表の要点、非会員を報告者にくわえる場合はその理由も示しつつ記述してください。）

⑦ 経費補助を希望する場合、その理由と目的・費目

⑧ 報告言語

⑨ 企画申請の研究領域

日本台湾学会第26回学術大会
自由論題報告申込用紙

提出先：富田哲 jatskikaku@gmail.com

- * 2023年10月14日（厳守）までに電子メール（WORD限定）で提出してください。申請を受け取ってから5日以内に受理したことを返信します。返信がない時には、jatskikaku@gmail.com までお問い合わせください。
- * 本学会との協力協定にもとづき、台湾文学学会会員の応募も歓迎します。ただ、この用紙ではなく、台湾文学学会会員申請用の申込用紙を使用してください。

① 氏名 会員／非会員（どちらかに○）

所属・職位等

- * 学生、院生の場合には、その旨を明記すること。

② 連絡先（電話番号および確実に連絡可能なメールアドレスを記入のこと）

③ 報告題名

④ 報告テーマに関連する主要な業績（2点程度。院生の場合は修士論文も可）

⑤ 報告内容と学術上の意味（1200字～1800字。別紙でも可）

⑥ 報告言語

⑦ 報告申請の研究領域